

平成24年11月29日

府中市長 高野 律雄 様

府中市緑の活動推進委員会  
会長 大澤 邦男

## 提 言 書

府中市緑の活動推進委員会は平成14年10月1日に発足して10年が経過しました。当委員会は今期で終了しますが、この間に当委員会は、市の緑の保全及び緑化にかかわる活動を継続するとともに、市民に緑の大切さを啓蒙してまいりました。

発足後1年半をかけてウォーキングマップを作成し、これを活用して市内ウォーキングツアーを実施、府中の自然の再発見に努めて参りました。お陰様でマップは改訂版を再々発行するまでになりました。

また、長年ホタルの飼育に取組み、市川緑道沿いの用水路も通年通水となったのを機に、平成22年3月下旬にホタル飼育場の幼虫を放流したところ6月中旬に羽化して、ホタルの光を市民に見せることができました。しかし現在は、ホタル飼育場のホタルは絶滅したと思われ、新たな取組みが必要となってきました。

恒例のグリーンフェスティバルは、東日本大震災の後、他の行事とともに「府中環境まつり」に統合されましたが、これにも積極的に協力参加しました。また武蔵台公園の植生調査・保全活動、身近な木の実や葉を使ったリース作りの指導、各小学校の総合的学習支援、更に蓮を観る会やツバメの集団ねぐら観察会などへの協力等々多くの幅広い活動を続けてきました。

当委員会は、最後の2年間の任期を満了するにあたり、活動を通して得た改善点や問題点を整理し、次のとおり提言します。

## 記

### 1. 生物多様性に配慮した緑地・公園づくりを市民参加で

市内の用水路全体の利用プランを、計画的かつ具体的に進められたい。親水路は原則として通年通水とし、ホタルその他の多様な水辺の生きものが生息できるような空間づくりを図られたい。また、多摩川、郷土の森博物館および郷土の森公園、金塚桜広場、府中崖線、多磨霊園、武蔵野公園、浅間山、府中基地跡地、東京農工大学、武蔵台公園（国分寺崖線）といった貴重な緑地空間を、野生生物の移動を可能にする「緑の回廊（コリドー）」の一部と認識し、生物多様性の保全のために、これらを適正に確保・管理し更なる回廊の充実を図られたい。これらは、市と市民が協働して取組むものとしたい。

公園・緑道の植栽については周囲の環境に配慮しつつ、緑地の保全に努めていただき、同時に、公園内の施設等を再点検し、市民参加の親しみやすく充実した公園づくりに努められたい。

### 2. 水と緑のネットワークウォーキングツアーの継続と支援

市民を対象に、年2回程度、市内の自然や歴史などにふれあうことができるよう、「水と緑のネットワークウォーキングツアー」を企画し、実施してきたが、多くの市民の参加を得ている。今後も引き続きマップに必要な修正を加えて市民に提供できるようにし、

このウォーキングツアーを多くの市民と共に続けられるよう支援してほしい。更にウォーキングコースの安全性、快適性を確保するために、遊歩道・公園などの方向指示板・園名板・解説板等を整備されたい。また、「名木といききの道」コース内にトイレが少なく、市民からも不便を生じているとの声があることから、トイレの設置を早急に実現していただきたい。

### 3. 府中の名木百選の新たな選定

「府中の名木百選」は、指定以来 20 年以上が経過し、古木の枯死や衰退が進んでいる。当初 103 本であった指定名木が、現在は 81 本になり、名木と言い難い樹木もある。名木選定当初の趣旨を想起し、早急に適正な対策と新たな名木、珍しい木、巨木などの選定を図られたい。

### 4. ホタル飼育の継続と支援

失われた自然環境の復活を試みるため、南町西部自治会や南町小学校と連携してホタルの飼育に取組み、ホタルが生息できるような自然環境の保全とは何かを学んできた。その中で、ホタルを人為的に他地域から持ち込むことにより、地域固有の生態系の存続に大きな影響を与えている問題が全国的に起きていることがわかった。飼育してきたホタルの遺伝子も分析調査した結果、多摩川水系の遺伝子ではないことが明らかになった。現在ホタル飼育場のホタルは絶滅したと思われるが、多摩川水系のホタルを飼育できるように環境を整備し、地域の方々と連携しながら必要な活動が継続できるよう支援していただきたい。

### 5. 「府中環境まつり」の実施

市民の自主的かつ主体的な緑化活動を推進するため、また緑化意識を高めるために企画された「府中環境まつり」は、引き続き緑の啓蒙をしていくうえで欠かせない。その一環として当委員会が行ってきた巣箱組立、木の実細工などの活動を今後とも実施できる環境を整えていただきたい。

### 6. 武蔵台公園の保全活動など自主的な活動への支援

武蔵台公園はほぼ 6 年間にわたり保全活動を続けているが、貴重な植物などが見いだされ適正な管理保全が求められている。武蔵台公園の山野草の保護区と散策路を整備し、貴重植物の保護のために立ち入り禁止柵を整備してもらいたい。武蔵台公園の保全活動は地域活動の一つとして今後も続ける必要がある。これまでも武蔵台小学校やシルバー人材センターの方々や近隣住民と連携しつつ自主的な地域活動を行ってきたが、更にこれを持続発展させるために、今後も自主的なボランティアの育成など保全活動に必要な支援をしてほしい。また、隣接する西東京警察病院跡地の利用動向については、当公園の保全の上でも強い関心を持っているので、適切な緑地等の確保のために努力されたい。

### 7. 自然調査の実施

府中市域の動植物など身近な生きものの実態を知ることによって、市民がより深く自然に関心をもつようになる可能性がある。またこの調査から得られる実態データは生物多様性の保全を考える際の貴重な資料のひとつになることも期待される。自然環境が大きく変化しつつある今、「府中市緑の基本計画 2009」の策定時の議論をふまえて、府中市域の生きものの生息状況を把握するための市民・学識経験者による調査組織を結成し、継続して調査を実施することが急務である。早急に自然調査の推進を図られたい。